



京都市文化観光資源保護財団

# 会報

No.17



久多花笠踊

## もくじ

(随想) 仏像に出会うよろこび

京都市立芸術大学教授 田村 隆照 P 4～5

シリーズまもる⑬ えんま堂狂言の保存と継承の苦労と楽しみ

千本えんま堂大念仏狂言保存会々長 沢田 弘 P 6～7

会員だより P 8～9

保護財団の活動 P 10～16

会報題字 理事長 佐伯 勇

会 報

No.17

52. 7. 15

編集・発行

財団

法人

京都市文化観光資源保護財団

京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606 電話 075-771-6051

日本のふるさと・国民の宝

## ◆京の文化遺産を 守りましょう◆

◇京都市文化観光資源保護財団は皆様方からの暖かい寄附金をもって、京都の貴重な文化財、伝統行事、芸能並びに文化財周辺の景観をまもる事業をおこないます。

◇ご協力いただいた寄附金は京都市文化観光資源保護基金として京都市が責任をもって管理し、基金から生ずる浄財はすべて保護事業に充てることになっています。

あなたも文化観光資源の保護者として

金額の多少にかかわらずご協力をお願いします

### ご協力いただく方々へ(募金要項)

#### 1. 名称

京都市文化観光資源保護基金寄附金

#### 2. 税の減免

この寄附金は京都市文化観光資源保護基金として、京都市が直接管理運用しますので、京都市に寄附されることになります。

\*法人の場合——地方公共団体に対する寄附金として全額損金に算入されます。

(法人税法第37条第3項第1号)

\*個人の場合——地方公共団体に対する寄附金として寄附金控除が受けられます。

(所得税法第78条)

#### 3. 募金協力者について

\*50万円以上の寄附者は、京都市の篤志者として京都市から表彰されます。

\*この財団では、次の基準により財団の会員として遇します。(会員の財団の諸事業に参

加することができ、会報の配布をはじめ、文化財関係事業の招待がうけられます。)

#### ☆特別会員

法人の場合……50万円以上

個人の場合……10万円以上

#### ☆普通会員

法人の場合……10万円以上

個人の場合……2万円以上

※上記の外、多少にかかわらずご協力いただいた方は賛助員として、当財団の諸事業に参加することができます。

#### 4. 申込・払込方法

所定の寄附金申込書により財団事務局までお申込み願うか、または直接持参・現金書留郵便・京都市指定金融機関及び京都市収納代理金融機関

## ご協力ありがとうございました 寄附者芳名録(敬称略)

51.12~52.6

#### 一法人一

[特別会員] 京都紫明ライオンズクラブ〈50万円〉

[賛助員] 厚木市立厚木中学校〈6万6千49円〉

厚木市立林中学校〈1万5百18円〉

#### 一個人一

[特別会員] \*笹岡勲太郎〈155万円〉

\*村上道枝〈72万円〉

\*伊砂利彦〈50万円〉

\*清水千里〈12万5千円〉

\*別所富美〈11万6千円〉

\*高橋政幸〈10万円〉

\*尾池晴雄〈10万円〉

#### [普通会員]

\*福井忠明〈8万260円〉

\*谷地孝一〈5万円〉

\*土屋祐一〈2万5千円〉

\*丸山末棹〈2万2千5百円〉

\*後藤 齊〈2万円〉

\*栗村好太郎〈2万円〉

\*山添敏文〈2万円〉

\*松島浩子〈2万円〉

#### [賛助員]

\*岡本保止〈1万8千円〉

\*今井憲一〈1万円〉

\*上田真一〈8千5百円〉

\*堀池嘉一〈8千円〉

\*田村彰敏〈8千円〉

\*加藤雅一〈8千円〉

\*安井たつ〈7千650円〉

\*安井和久〈7千650円〉

\*吉田篤信〈5千円〉

\*上田長雄〈5千円〉

山下サナエ〈5千円〉

\*入山敦子〈4千円〉

\*佐々木みつ子〈3千2百円〉

高橋秀晴〈3千円〉

窪田逸郎〈3千円〉

水谷勢津子〈3千円〉

\*吉本明子〈2千8百円〉

富家保江〈2千円〉

平井治子〈2千円〉

萩原泰子〈2千円〉

福島京子〈2千円〉

\*吉岡義三〈1千3百円〉

鈴木久夫〈660円〉

## 今年も修学旅行生より善意の寄附

京都の文化財をまもるためにと、今年も京都に修学旅行にこられた神奈川県厚木市立の厚木中学校並びに同市林中学校の生徒の皆さんからの善意の寄附金が宿泊先のホテルの支配人さんを通じて、当財団事務局へ届けられた。事務局では早速、この善意に対して校長先生にとりあえずお礼の一報を伝えるとともに生徒の皆さんにお礼の手紙を送った。このページをおかりして皆さま方にもこのあたたかいニュースをお知らせします。

## (随 想)

### 仏像に出会うよろこび

京都市立芸術大学教授 田村 隆 照

「仏さまは拝むものとはばかり思っていました、私たちの心を洗うような美しさを持っておられるのですね。」とは寺に生まれ寺で育ち宗門の大学ではじめて美術史の講義を聞くようになった若い学生の素朴な述懐である。また宗教といえバキリスト教、彫刻といえバギリシヤやローマの彫刻とはばかり思っていたという画学生が、一年間の日本美術史演習で実際に仏像に接し、「日本にこれほど深い感銘を与える彫刻があったのか」という驚きのことばを語り、毎週一回の見学が感激の連続であったことを話したことがある。しかしこれを常識はずれも良いところだと、その認識不足を指摘したり、責めたりするようなことはなかった。むしろ仏像やそれが安置してある堂内の素晴らしさに圧倒された素直な声として耳を傾けることが多く、そして彼等の考え方がほとんど間違っていないことに創造にかかわる学生のたしかな目を感じたりするのである。

そして、また彼等の多くが過去20年間仏教信仰とかかわりなく育っているという事実を考えると、仏像のもつ美の力やそれを作った人たち、またそれを礼拝恭敬した多くの人たちのいのりの力がいまに伝わっていることに驚くのである。

少し前までは仏像は礼拝すべきもので見るなどとはとんでもないことだという寺側の意見をよく聞いたものである。しかし、現在では限られた秘仏以外、仏像は礼拝像であると同時に宗



広隆寺「弥勒菩薩半跏像」(国宝) 朝鮮からもたらされたもので飛鳥時代の推古11年聖徳太子から賜わって当寺の本尊としたといわれ、京都最古の仏像として名高い。

教芸術作品でもあり、芸術的関心からの鑑賞や観照の対象としても存在し、それ故にこそ今日の意味をもっているというべきであろう。とは良くいわれることばであり、私自身もいつか書いた記憶がある。ただ私は、仏像を鑑賞するとか見るとのことばに抵抗を感じる一人である。仏像はじろじろと唯みるだけのものではないという気持がつよいからで、やはり仏像とともに居る空間の中で感じるひびきを大切にしたいと思う観照のことばは一般的ではないが、仏像と相對坐して伝わる何かを感じるのだという姿勢が常に必要であると思っている。

古寺名刹を訪づれる人の多くは有名な仏像に接してその美しさ、大きさ、さらに様式的特徴などとたしかめ、美術的観点からの拝観で満足し、さらにはそれが安置されている堂塔や周辺の風土との出会いによるこびを大きくするというのが普通である。たしかにこれは、仏像を拝

むという信仰の姿勢ではないので鑑賞ということばで良いのかも判らないが、美にひかれてその仏像をよりよく知りたいという希いをもたされるということになると、それは単なる鑑賞ではないという感じがつよい。名画鑑賞とか名品鑑賞とはちがった観照ということばが仏像には必要なのだという立場である。もっとも誰でもいきなりその仏像がつくられた時代の人と心情を同じくし、同じような信仰の境地に入れるというものではない。しかしできるだけそのような方向での仏像との出会いがなされるべきであり、そういう配慮が常におこなわれなければならないと思う。そのような意味からやはり、文化財保護という保存優先の立場から収蔵庫がどんどん作られ、ガラスケースに入れられていくことは淋しいことである。もっとも収蔵庫の設計の段階でそれを立派に解決した例も2・3知っている。この点、寺や指導官庁の心すべきことのように思われる。とくに、寺側の姿勢如何が仏像の本来もっている内容をより充実させて多くの人に、大きいよろこびを与えつづけるか、あるいは仏像の生命をスポイルするかという岐れになるように思われる。寺を護持し仏像に奉仕する住侶の見識ある配慮がのぞまれる所以である。水は器にしたがうの諺は拝観者と寺にもあてはまるようである。住職の熱意が強い印象としていつまでも心にのこり、仏像のことと共に忘れられないことも多い。昔ながらの寺伝を繰り返して、かえって拝観者の失笑をさそうような状態では、いくら素晴らしい仏像もその生命を減じていくより仕方があるまい。

水(拝観者)は器(寺)に応じてどのようにでも変化されるようで、仏像との出会いの場において住侶のことばは、催眠術的な力を発揮し、それが印象ぶかい仏像との出会いの前奏曲のような役割を果すことも多い。勿論そのようなことば一切がなくとも静坐するだけで、その堂の空間のきびしい雰囲気あるいはあたたかいたたずまいにふれることによって、心の安らぎを得、仏像との自然な出会いを得ることもある。寺の空間が住侶のことば以上の力を出した場合である。幸い京都には堂と仏像とが創建当初の姿を伝える多くの古寺名刹がある。私たちは平安京と共に造営された東寺や和気氏ゆかりの神護寺などに真言密教のはじめごろの仏像を拝して、その空間に参入することができるし、天台密教の中で拡大された阿弥陀信仰を実感できるすぐれた阿弥陀堂を身近にもっている。それらはいずれも平安の都に営まれ伝えられた日本美術の中でも屈指の密教美術であり、浄土教美術でもある。できるだけ当時の人たちの心に近づき私たちの心の中にこれら仏像との出会いをたしかめたいものである。



一神護寺一国宝薬師如来立像をはじめ平安時代密教美術を今に伝える。

## シリーズまもる⑰



千本えんま堂大念仏狂言保存会  
会長 沢田 弘

昭和49年5月28日会社へ出勤して、今朝早くえんま堂で火事のあった事を知らされ晴天の霹靂の思いで取る物も取りあえず寺へかけつけました。

見ると親代々の心のよりどころとしていた狂言堂が無慥にも焼おちていました。その場に立ちすくむ和尚さんに面は衣裳は小道具はと矢継早にたづねました。

面は無事だったが衣裳小道具は全滅との事を聞き啞然としました。

室町時代中期より栄々と伝わるこの狂言もこれでおしまいかと思うと涙がとまりませんでした。

京の三大念仏狂言として伝わるこの狂言を絶してなるものかというファイトもこの時、胸の中で燃上りました。

これより前千葉大学の森助教授の熱心な復活へのすすめもあったので早速昔の仲間呼びかけると、皆も同じ思いだったそうで同意をえら

れました。皆と申しまして私を入れて4人しかいません。

しかし、15年のブランクと、衣裳の全滅はあまりにも打撃も大きくどこから手をつけてよいのやら全く見当がつきません。焼跡整理後、大名の衣裳ら2・3点残っているとの事に大いに力をえて初めは着流しで出来る狂言からやろうと皆で各所に働きかけ着物の寄附をあおぐかたわら四人でけいこを始めました。

でんでん虫、神崎渡し、花折の三番を上げ検討しましたが、4人ではどうしても少く苦しいのでお寺の息子さんも入ってもらいどうにか再開にこぎつけました。

昔からある会則はひじょうに厳しく今の時代にそわないので会則も作り直し心の和に重きをおきました。

昭和50年6月の復活第一回を目標として毎週水曜日夜8時をけいこ日として和気あいあい、そして一生懸命に。なにしろ15年もブランクがあったため忘れていたところが多々あり、皆でこうではなかったか、あゝではなかったかと研究し合い時間の立つのも忘れ終るのは12時、1時になるのもめづらしくありませんでした。

えんま堂狂言は壬生狂言、嵯峨狂言とちがう所はセリフがある所ですが、昔から台本と言う物はありません。口づたへに来たものでしたが、私の父が私の為に10番ほど書き残してくれていますのでこれを基本としてやっておりました。

しかし皆は西陣の織屋関係の人ばかりですからPRの方法をしりません。そこで私達の所属している写真グループの方々(グループ彗星)の御尽力によりまして報道関係に連絡してもらったり方々のかたがたにお世話になりともかく

にも6月を迎えました。

15日幕を開け驚いたことに、見物席はいっぱいの人人人……このように私達の狂言の復活を待っていて下さる方がおいでになったのかと今更ながら責任の重大さを感じました。

さて今後の方針ですが一応地固めは出来ましたのでこれからは、毎年2・3番出し物をふやして行きたいと思っております。

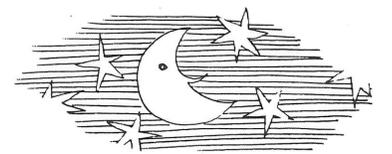
それにつけても衣裳が欲しいと思う矢先文化観光資源保護財団から資金援助を戴き誠にありがたい事だといたく感じているしだいです。又会員も現在8名になりましたがまだまだ多くの方が需要ですので狂言をして見ようと思われる人はえんま堂まで連絡して下さいようお願い申し上げます。保存会一同お待ちしております。

何分にもゼロからスタートですのでこれからも苦勞が多いと思いますが、会員一同心を合せて研究にとりくむつもりです。

今年は今迄のんでん虫、神崎渡し、花折、に加えて土蜘蛛、寺ゆづり、えんま帳と6番にふえ明年5月を目ざして紅葉狩、いも汁などのけいこをしております。

衣裳も徐々ではありますが出し物にしたがつて作りつつあります。

小道具は会員の手作りです。それだけに昔と違って又楽しみでもあります。



狂言堂焼失する前・年中行事としておこなわれていたえんま堂狂言(加茂川渡り)

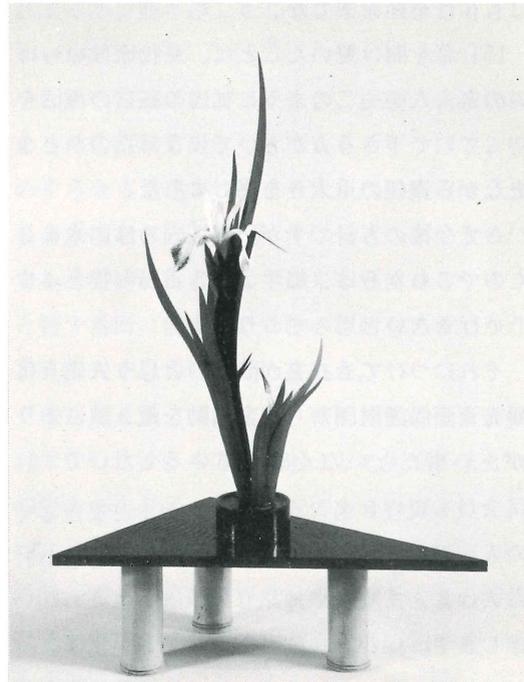
## 会員だより

### “かきつばたに思う”

未生流笹岡家元 笹岡 勲 甫

夕げのあと、依頼の原稿でも書こうかと思いつつ、ふと手にとった夕刊に“花しょうぶ明日公開——平安神宮”の大きな活字を見出す。記事の内容は、「名にしおう平安神宮の花しょうぶも、これからがちょうど見ごろ。西神苑を中心に二百種、三千株が今月中旬すぎまで咲き競うが、折しも梅雨入りと合わせたように開いた一番花は久しぶりの雨に洗われて、ひとときわ映えた。」というものであった。

この京都には、かきつばた、花しょうぶの名勝、天然記念物が非常に多い。この平安神宮もそのひとつであるが、このほか太田神社の野生のかきつばた、そして梅宮神社のかきつばたもその種類の多さでまた有名である。中でも平安神宮のかきつばた、花しょうぶは文化観光資源保護財団より資金の援助を受けており、また関係者の努力もあって、その保存は行き届き、年毎に見る者を楽しませてくれる。が一方、梅宮神社のそれは住宅開発が周囲の環境を悪化させたためか、あるいは財政面での問題か、かきつばたの育成に激しい情熱を注がれた前宮司がなくなれてからは、庭園は荒れ、池の鯉もかきつばたの根を荒らすなど、往時の面影を見ることが出来ない。ところが幸いなことに、近ごろ再び庭園の整備の意向が関係者の間で盛り上がりつつあるという。この機会にこそ、保護財団の



筆者提供“折鶴”

手厚い援助の手をお願いしたいものである。

ところで、北山のふもと、太田の沢に群生するかきつばたにも、また心痛む。ここの花は、野生のかきつばたがもつ濃紫色に特色づけられ、そのいろどりの美しさゆえに有名であるが、先日機会あって沢を訪ねてみると、別種のかきつばたが群生している。驚いて早速事情を聞けば、嵯峨のある植木屋より別種のかきつばたを入れたとの由である。野生のかきつばたも、手入れと水質管理によっては充分分けつけ、その数を増やすことが出来るにもかかわらず、その努力を怠り、唯だ数だけを増せばそれで良しとする態度はまことに遺憾である。保護財団の使命のひとつに、こうした保存面での指導もあるべきだと痛感した次第である。

とはいえ、嬉しいことには、またこれらと逆の話もある。先日、河原町荒神口の近くに「折

鶴」らしいかきつばたが鉢植えされているのを見つけた。たずねてみると、光格天皇より、一部の好き者に分けられたものだとのこと。その名も「雲井の鶴」という。全く同じかきつばたが、ここでは「雲井の鶴」と呼ばれ、二尊院では「雲上鶴」、そして平安神宮では「折鶴」と呼ばれている。面白い話である。唯だこれらに共通しているのは「鶴」の一字が付けられていること。だがこの市井の人は、ひたすら「折鶴」ならぬ「雲井の鶴」を深く愛し、また保存しつづけているのである。こうした姿勢こそ、文化財保護を願う姿勢だといえるのではなからうか。みなりたいものである。

文化観光資源保護財団も、当初の目標額、10億円を達成したものの、物価の上昇は、当初目標額の利子のみで運用することを非常に困難にしているとも聞き及ぶが、反面、その運用についても、いろいろ再検討すべき余地を残しているのではないだろうか。



花しょうぶ満開で見学者でにぎあう平安神宮“神苑”



東京都板橋区

松島 浩子

東京の学校を卒業してすぐに京都の叔父の家へ住むことになった。叔父は当時東本願寺の別院にいた。終戦後間もない頃であった。併し、私は東山を仰ぐことはできたが終始家事の手伝いで、お寺の忙しさを痛切に感じるのみであった。

時代は滝の落ちる如くに過ぎた。現在になり、日本という国の本質的なものを、たゞし、それが何故大切なものかを考える、そして又、自分が生きるためには長い正しい歴史を知ってこそ日本人の本当の生活ができるのではないかと思ひ、年に1度計画をたてて京都へ旅をつづけている。

昨年は周山街道をとおり常照皇寺から、嵯峨野、そして哲学の小道を散策した。嵯峨野の自然はすばらしかったが、何となく此所にも歴史が消えていくような不安感がないでもなかった。建物、仏像、絵画等、本当のすばらしさを此の目でみればその時代の日本を大切にしなければならぬことを感じる。

現代の世相が、とかくインスタント的で外面的にこだわり、自分の事に追われやすいが長い歴史をよくみつめて物事の真髓をきわめ地道な歩き方をしたいものである。

人間が誰でもできることは地面を歩くことである。出来ても水面を泳ぐことである。併し、空を飛ぶことは出来ないのである。

此の世には人間以外の生物が沢山生きている。そういう事も忘れずに生きたいものだ。

## 保護財団の活動

### 役員会の報告

#### —第16回理事会、評議員会を開催—

51.4.13 於京都都ホテル

第16回理事会並びに評議員会を開催し、昭和

51年度の文化観光資源保護事業に対する補助金交付をはじめ、昭和52年度事業計画並びに収支予算、役員の変動について審議をおこない原案のとおり可決決定した。また同席上において、船橋京都市長、佐伯理事長から、京の伝統行事、芸能功労者表彰並びに文化観光資源保護協力者感謝状の贈



第16回役員会 於京都都ホテル 52.4.13

呈をおこない、役員一同その功労をたたえとともに感謝の意を表した。

●昭和52年度事業計画並びに収支予算については、文化観光資源保護事業に対する助成事業を中心に、従来の啓蒙事業などについての内容の充実をはかることにより、財団事業を推進し、財団のおこなう文化観光資源保護事業の賛同者の呼びかけを更に積極的におこなうことを決めた。

#### ●役員の変動について

役員の変動並びに団体等の代表者の交替に伴う役員の変動を決めた。新役員は次のとおり。

(敬称略・順不同)

専務理事 砂田治郎 (京都市文化観光局長)  
常任理事 穴水清彦 (横浜商工会議所会頭)

常任理事 外島健吉 (神戸商工会議所会頭)  
理事 藤田价浩 (京都古文化保存協会理事長)

評議員 鈴木日出年 (八坂神社宮司)  
〳 牧野耕二 (住友信託銀行株式会社社長)

〳 田部文一郎 (三菱商事株式会社社長)

評議員 杉谷義周  
(妙法院門主代務者)

評議員 畑 耕平  
(国鉄本社旅客局長)

### —昭和51年度 文化観光資源保護事業補助金交付

祇園祭をはじめとする京の四大大行事など94件に対し

補助金総額 **7,553万円**を交付!

文化財専門委員会において選考されました昭和51年度中におこなわれた文化観光資源保護事業94件に対し、総額 7,553万円の補助金交付の決定をおこなった。

今回は、伝統行事、芸能の部において昨年嵯峨清涼寺本堂屋根修理のため中止になった嵯峨お松明行事をはじめ、嵯峨狂言、千本えんま堂狂

言の3件を追加補助対象とした。文化観光財の部では、建造物の部で洛北、貴船神社の本殿、拝殿等の屋根葺替工事、美術工芸品の部で大神宮社(左京区市原)の阿弥陀如来像が主な対象となっている。昭和45年度実施以来、これで交付件数は656件、交付金額は336,074千円となった。

昭和51年度交付対象の概要は次のとおり。

#### 1. 四大大行事保存執行に対する助成

10件 補助金 38,210千円

- 対象一 ● 葵祭 (葵祭行列協賛会) … 葵祭行列執行事業
- 祇園祭 (祇園祭協賛会) … 山鉦巡行執行事業、(祇園祭山鉦連合会) … 山鉦修理事業(12山鉦町)
- 大文字五山送り火 (大文字五山送り火協賛会) … 点火執行事業、(大文字五山各保存会) … 各山(五山)の火床整備事業
- 時代祭 (時代祭協賛会) … 時代祭行列執行事業



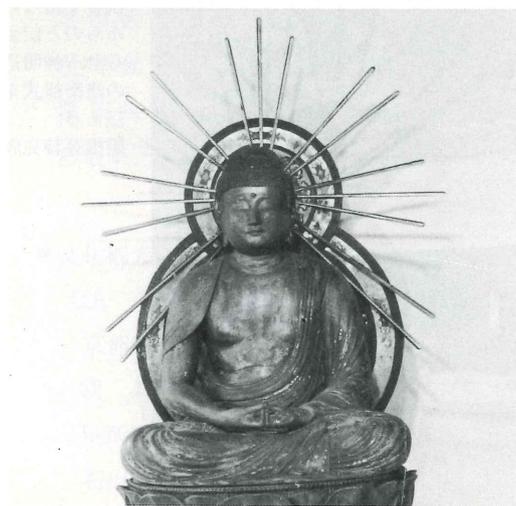
大文字五山送り火火床整備“鳥居形松明火床の整備”

#### 2. 文化観光財保護事業 (国庫補助を伴わないもの) に対する助成

41件 補助金 22,050千円

- 建造物の部  
15件 補助金 11,880千円
- 美術工芸品の部  
10件 補助金 2,500千円
- 防災施設の部  
8件 補助金 5,000千円
- 環境整備の部  
8件 補助金 2,700千円

対象一 ● 黄梅院書院半解体修理・徳禅寺客殿修理・貴船神社本殿、拝殿等屋根葺替工事・大雲寺關伽井堂屋根修理・蓮華寺本堂屋根瓦葺替工事・日向大神宮下ノ本宮本殿屋根葺替工事・梅宮大社幣殿等修理・浄住寺本堂屋根葺替・大神宮社阿弥陀如来座像修理・曼殊院襖絵修理・大龍寺地藏菩薩立像修理・隣華院屏風修理・北野天満宮総合防雷工事・青蓮院自動火災報知設備工事・清涼寺防災道路新設工事・二尊院消火栓設備工事・西翁院庭園整備



洛北市原「大神宮社」藤原彫刻と伝えられる“阿弥陀如来座像”

・天球院表土堀修理など。

### 3. 伝統行事、芸能保護事業に対する助成

41件 補助金 9,270千円

対象一（行事—11件）

嵯峨お松明・藤森駟馬・賀茂競馬・鞍馬竹伐り会・松上げ（3件）・烏相撲・ずいき祭・高盛御供・鞍馬火祭

（芸能—30件）

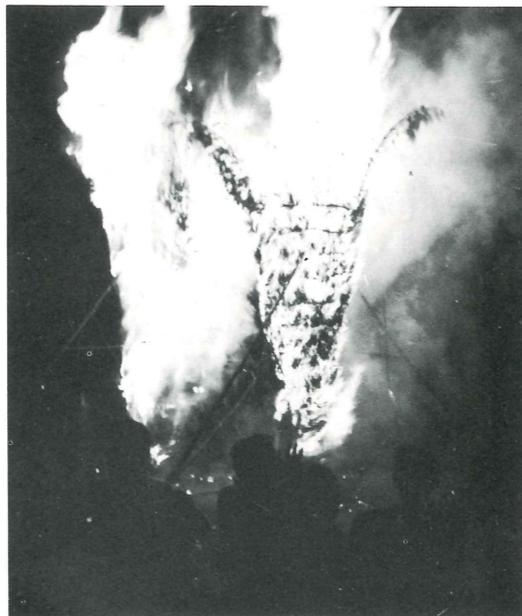
けまり・雅楽（3件）・念仏狂言（4件）・六斎念仏踊（11件）・やすらい踊（4件）・松ヶ崎題目踊・久多花笠踊・八瀬赦免地踊・上棟祭・鉄仙流白川踊・紅葉音頭（2件）

### 4. 文化観光資源景観保持に対する助成

2件 補助金 6,000千円

対象一松毛虫駆除事業など

総件数 94件 補助金総額 75,530千円



昨年清涼寺本堂屋根修理のため行事が中止になったが、今年は昨年を含め、松明の火も盛大に燃えあがり行事を無事終了した—嵯峨お松明—



■日向大神宮  
下ノ本宮  
社殿は伊勢の内宮、外宮を模して造られたものと伝えられる神明造の建築様式を伝える。  
屋根葺替完成

## 京の伝統行事、芸能功労者ら 15人を表彰

長年、京の伝統行事、芸能の保存と継承に努めてこられた功労者をはじめ、財団の基金募集に対し、多額のご協力をされた篤志者にそれぞれ表彰並びに感謝状の贈呈を第16回財団役員会の席上においておこなった。この事業は、財団設立を記念して昭和45年より毎年1回、文化観光資源保護思想の啓蒙事業の一環として、京都市と財団でおこなっているもの。受賞者は次のとおり。(敬称略・順不同)



表彰式・佐伯理事長より伝達

#### ●伝統行事、芸能功労者

- 中西乙吉(68才) 「烏相撲保存会重陽社」
- 川本寅治郎(74才) 「西之京瑞饋神興保存会」
- 野村英造(68才) 「壬生大念仏講」
- 長岡賢明(44才) 「吉祥院六斎保存会」
- 和田太郎(67才) 「久世六斎保存会」
- 神先長蔵(63才) 「中堂寺六斎会」
- 芝田義雄(66才) 「空也念仏郡保存会」
- 浅井光三(48才) 「壬生六斎講中」
- 森田俊夫(73才) 「八瀬赦免地踊」
- 宮坂幸三郎(76才) 「上賀茂紅葉音頭保存会」

#### ●文化観光資源保護協力者

(法人)

京都紫明ライオンズクラブ

(個人)

別所閑山(故人) ・野崎 泰  
石川秀男 ・並河康夫

## —第17回理事会、評議員会を開催—

52.6.15 於京都都ホテル

昭和51年度事業報告並びに収支決算、役員の変動について審議をおこない原案のとおり可決決定した。

昭和51年度事業報告の要点は次のとおり

- (1) 文化観光資源の所有者、管理者等に対する昭和51年度補助金交付事業  
補助対象 94件 補助金総額 75,530千円
- (2) 文化観光資源保護思想の啓蒙普及事業
  - 会報の発行（14・15・16号）●文化観光資源の公開（郷土芸能の夕・文化財特別参観4回）・伝統行事、芸能功労者等の表彰・財団のしおり、伝統行事 芸能のしおり、文化財カレンダー等の発行・文化財写真パネルの作成・文化観光資源保護事業関係の後援・文化観光資源の実態調査
- (3) 募金活動

昭和51年度中の寄附金

寄附者件数 184件 金額 13,179,415円

寄附金累計(昭和44年より)

寄附件数 2,948件 金額 1,178,100,511円

● 役員の異動について

団体等の代表者の交替に伴う役員の異動を決めた。新役員は次のとおり。(敬称略・順不同)

評議員 丹羽一衛(日本ホテル協会京都支部長)

〳 豊原大潤(西本願寺宗務総長)

〳 土方 武(住友化学工業株式会社社長)

〳 池田一郎(株式会社大和銀行頭取)

## 京の伝統行事、芸能の しおりを発行

千有余年の歴史のなかでうけつがれてきた京の伝統行事、芸能は郷土の四季おりおりに、歴史的風土を舞台に多彩にくりひろげられていますが、こうした伝統行事、芸能を紹介し、そのよさを広く一般に理解していただくために、このほど“京の伝統行事、芸能のしおり”を発行しました。会員の皆様で配布ご希望の方は、封書に、京の伝統行事、芸能のしおり配布申し込みを記入し、送料(切手)140円分を同封の上、当財団事務局へお申し込み下さい。

※発行部数に限りがありますので会員1人につき一部といたします。なお、希望者多数の場合は配布を制限いたします。

申し込み締切りは8月10日までといたします。

## 京の伝統行事、芸能の 写真パネルを作成

このたび、京の伝統行事、芸能のしおりの発行にともなって、その写真パネルを作成し、各種文化財関係の催し物等に貸出しをおこなっています。各種催し物等にご利用下さい。お申し込み、お問い合わせは当財団事務局まで。

☆今回作成したパネルは16点(カラー版・サイズ64.8cm×74.8cm)で内容は京の四大行事・六斎念仏踊など、現在、さらに追加作成中。(なお、今回作成したパネルの外に、年中行事モノクロ版20点・文化財建造物・庭園などカラー版28点があります。)

## —文化財特別参観の報告—

### ● 第15回文化財特別参観「南禅院、と」金地院、実施

#### 金地院茶室「八窓席、など見学

好天にめぐまれ去る12月4日、南禅寺塔頭の南禅院と金地院を見学、南禅院においては、南禅寺宗務総長さまからの講演をいただくとともに名勝庭園を鑑賞、金地院ではご住職さまのお話しのもとに見学、非公開茶室八窓席に参観者はくぎづけになっていた。

### ● 第16回文化財特別参観「徳禅寺、と」黄梅院、実施

#### 雪化粧の庭園にためいきがもれる

京都の町にしんしんと雪がふりやまぬ、去る3月5日、大徳寺塔頭の“徳禅寺”と“黄梅院”の特別参観をおこない、昭和51年度当財団助成のもとで立派に修復された。徳禅寺客殿を始め、

黄梅院書院など見学、参観者はそこ冷えの一段ときびしい中で、熱心に住職さまからの説明に耳をかたむけていた。

## 第17回文化財特別参観のご案内

一 聖護院、と金戒光明寺塔頭の西翁院、一  
聖護院旧仮皇居として高雅清閑な庭園と結構壮麗な殿舎を伝える聖護院と、佗茶の文化を伝える西翁院の茶室澱看の席（重文）などの見学をおこないます。

☆参観日時 昭和52年9月10日(土) 午後2時  
(参観時間2時間)

☆対象者 財団募金協力者(会員)とその家族



黒谷、西翁院茶室、澱看の席



南禅院名勝庭園見学風景(51.12.4)

☆申込方法 往復はがき1人1枚に住所、氏名  
年令を記入

☆申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町  
13 京都会館内  
京都市文化観光資源保護財団宛

※参加費不要 お問い合わせは財団事務局まで  
なお、人数に制限がありますので、先着60名  
で締切らせていただきます。

## ◆みんなで文化財を火災から守ろう◆

桜の名所である平野神社で、6月5日夜、神饌所から出火しました。

広い境内であったこと、夜であったことなどの悪条件が重なって発見が遅れ、同建物を焼失しました。重要文化財に指定されている本殿は不幸中の幸いで類焼を免がれました。

過去に発生した文化財建物からの火災の発生をみえますと、季節的には夏が一番多く、しかも放火や火あそびによるものが時期的に増える傾向にあります。

そこで京都市消防局では、7月15日から7月31日までを「文化財に対する防火の強化期間」として防火の総点検や消防訓練などを通じて、防火の備えを固めるよう強く働きかけています。

しかし文化財を管理している方の努力だけでは万全を期すことはできません。文化財建物などに訪れる市民や観光客一人ひとりに防火のマナーを守っていただくことが大切であり、文化財防火に対する協力を広く呼びかけていきます。



京都市消防局



## \*京きやり採譜集を発行される

—京きやり、を音譜により保存—  
(番匠保存会)

きやり音頭は奈良時代に起源を  
もつと伝えられる上棟祭の儀式で、  
宮殿、社寺等の造営を祝って工匠達が労働の喜  
びと、施主の栄誉を歌い上げた祝歌で、番匠保  
存会(会長並河康夫)では、その保存と継承に  
努めている。しかし、近年この儀式のおこなわ  
れる機会も少なくなり保存会では、音頭の伝承  
に四苦八苦していた。そこで音頭を正確に後世  
につたえるために、音譜による記録作成を2~  
3年前から保存会の手ですすめ、その苦労がみ  
のり、京きやり、と題し採譜集が完成、去る2  
月25日その発表会が京都私学会館で盛大におこ  
なわれた。これを機会に、今後さらに保存会が  
活躍されることを期待するものです。

### 表紙写真解説

■久多花笠踊 久多花笠踊は京都市北端にある山間の静かな久多に、  
古く室町時代からうけつがれてきた風流踊の一つで、毎年8月24日夜  
9時頃から上ノ宮神社、大川神社、思古淵神社の3社を順次まわって  
踊りを奉納する。踊りの曲目は、道行、みちびき、唐船など100曲以  
上ある。花笠灯籠は、和紙や瀧木の芯などを使って色とりどりの造花  
や切り絵でもってつくられている。

## 編集後記

暑中お見舞申し上げます



☆祇園祭とともに京都にも本格的な夏がやって  
まいりました。京都の夏は、祇園祭をはじめに  
各地で伝統行事、芸能が多彩にくりひろげられ  
ます。なかでも、念仏踊などが多く、お盆の行  
事としておこなわれるようです。四季を通じて  
京都の夏は観光シーズンオフといわれ、幾分観  
光客が減りますが、もっとも京都らしい風情を  
ただよわせるのは夏にあると思えます。ふだん  
の洋服姿から浴衣姿に変身して、町かどでおこ  
なわれる京の伝統行事、芸能にふれてみてはど  
うでしょうか。

☆昨年度一年間、文化観光資源を守るための基  
金にと184件から1300万円余にも及ぶ善意のご寄  
附金をいただき誠にありがとうございました。

皆様方のあたたかいご協力のもとに、更に一  
層文化観光資源の保護事業の推進に努力してま  
いりますので、今後とも絶大なるご支援、ご協  
力を賜りますようお願い申し上げます。

## —京の年中行事より— (8月~10月)

8月 15日 花背松上げ(午後9時)花背八樹町  
15・16日 松ヶ崎題目踊(午後8時半)涌泉寺  
16日 大文字五山送り火 五山  
24日 広河原松上げ(午後10時) 広河原  
24日 雲ヶ畑松上げ(午後8時) 雲ヶ畑  
中畑町・出谷町  
24日 久多花笠踊(午後9時)上ノ宮神社  
~大川神社~思古淵神社  
27日 修学院紅葉音頭(午後8時前)修学院離宮  
六斎念仏踊・中堂寺六斎(9・16日壬生寺)・西  
方寺六斎(16日西賀茂西方寺)・小山郷六斎(22日  
上善寺)・嵯峨野六斎(23日嵯峨阿弥陀寺)・西院

六斎(23日西院高山寺)・吉祥院六斎(25日吉祥院  
天満宮)・久世六斎(31日蔵王堂光福寺)  
9月 1日 八朔踊・湯立神楽 江文神社  
8日 上賀茂紅葉音頭(午後9時)上賀茂神社  
8・9日 鳥相撲と重陽神事(午前10時)上賀茂神社  
10月1~5日 瑞饋祭(神輿巡行 4日午後1時)北野天満宮  
10日 八瀬赦免地踊(午後8時)秋元神社  
12日 牛祭(午後7時) 広隆寺  
20日 北白川高盛御供(午前8時頃)北白川天神宮  
22日 時代祭(正午) 御所~平安神宮  
22日 鞍馬火祭(午後5時半) 由岐神社

(都合により、行事日時変更の場合がありますのでご了承下さい。)